

J T - I 3 6 6 . 1

**A A L タイプ 2 のための分割 / 組
立サービス依存コンバージェンス
サブレイヤ**

Segmentation and Reassembly Service Specific
Convergence Sublayer for the AAL type 2

第 1 版

2002 年 5 月 30 日制定

社団法人
情報通信技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

本書は、（社）情報通信技術委員会が著作権を保有しています。
内容の一部又は全部を（社）情報通信技術委員会の許諾を得ることなく複製、転載、改変、
転用及びネットワーク上での送信、配布を行うことを禁止します。

目 次

< 参考 >	3
1 . 標準の概要	4
2 . 本標準で規定する内容	4

< 参考 >

1 . 国際勧告等との関係

本標準は、1998年6月に国際電気通信連合電気通信標準化部門（ITU-T）SG13会合において勧告化されたITU-T勧告I.366.1に準拠している。

2 . 上記国際勧告等に対する追加項目等

2.1 オプション選択項目

特になし

2.2 ナショナルマター項目

特になし

2.3 原標準に対する変更項目

特になし

3 . 改版の履歴

版数	制定日	改版内容
第1版	2002年5月30日	制定

4 . 工業所有権

本標準に関わる「工業所有権等の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、TTCホームページでご覧になれます。

5 . その他

(1) 参照する主な勧告、標準等

TTC標準 : JT-I361, JT-I363.2, JT-I363.5, JT-Q2110

ITU-T勧告 : X.200, X.210

(2) 本出版は、具体的な規定内容を含んでいない。規定はすべて準拠元であるITU-T勧告に拠っている。

具体的な規定内容はITU-T勧告を参照する必要がある。

6 . 標準作成部門

第二部門委員会 第五専門委員会

1 . 標準の概要

本標準は、遅延に敏感なアプリケーションで使用される、低速度、ショート、および、可変長パケットの帯域使用効率の良いAALタイプ2のための、分割/組立サービス依存コンバージェンスサブレイヤ(CSサービス依存部)を規定する。1つ以上のAALタイプ2ユーザ情報ストリーム上に、分割/組立CSサービス依存部を適用することを可能とする。本標準は、オプションの伝送誤り検出や確認型データ転送機能に加え、サブレイヤ構成、本サブレイヤの様々なレイヤ部分のフレーム構成、ならびに、分割/組立処理のメカニズムを規定する。

AALタイプ2のCSサービス依存部として適用される本分割/組立CSサービス依存部により、サブレイヤ共通部(CPS)で規定される最大長を超えるパケットサイズの転送が可能となり、さらに、遅延に敏感なアプリケーションにおける、低速度、ショートパケットとの多重が可能となる。

本標準は、AALタイプ2のための分割/組立CSサービス依存部とその上位レイヤ間、本CSサービス依存部とAALタイプ2間、および本サブレイヤとレイヤ管理間の相互動作を説明している。また、分割/組立サブレイヤ同位間オペレーションについても説明する。

2 . 本標準で規定する内容

本標準で規定する内容は下記のITU-T勧告に拠る。ITU-T勧告中で参照している標準は表1-1に示す標準に置き換えるものとする。

ITU-T 勧告 I.366.1 :「Segmentation and Reassembly Service Specific Convergence Sublayer for the AAL type 2」
(06/98)

表1-1 本標準で置き換えて参照する標準

ITU-T 勧告中の参照先標準	本標準で置き換える標準
ITU-T 勧告 I.361 (1995)	TTC 標準 JT - I 3 6 1
ITU-T 勧告 I.363.2 (1997)	TTC 標準 JT - I 3 6 3 . 2
ITU-T 勧告 Q.2110 (1994)	TTC 標準 JT - Q 2 1 1 0
ITU-T 勧告 I.363.5 (1995)	TTC 標準 JT - I 3 6 3 . 5